インボリューション（内捲） ―― 何をなすべきか？

喬膲　2021/11/7 （無國界社運／BORDERLESS MOVEMENT 掲載　https://bit.ly/3ozIsvY ）

2020 年、あまり興味をもたれない人類学の学術用語である「インボリューション」（内捲＝内側に向かう競争）が突如として流行語になった

◎いかに議論すべきか

人類学的な概念である「インボリューション」とは、停滞した社会の中で、既成の文化、技術、政治、制度、組織などが常に複製され、定着し、複雑化していくことを指す。
→イースター島、縄文人と弥生人、江戸時代の鎖国、近年の「ガラパゴス化」など？

ある家の台所には包丁とまな板しかなく、涼菜（火を使わない中華風オードブル）しか作れなかったとする。様々な条件によってこの涼菜を食べることが、この家のルールになった。炊飯器や鍋、オーブン、レンジなどを買う代わりに、大根やニンジンに清明上河図（北宋の都、開封の賑わいを描いた絵巻）を彫る芸術的調理作業に没頭した結果、お隣の家ではキッチンの調理器具を完備して満漢全席をつくっているのに、その家ではまだ（彫刻が掘られた）大根の涼菜だけを食べていた・・・。

中国インボリューションの4つの例

例1　社内に明文化されたルールはないが、実際には誰もが996〔朝9時から夜9時まで 6 日間の過酷労働〕に自発的に倣っている。まったくインボリューションというほかない！

例2　五人の博士号取得者が、町内の雑務スタッフ〔街道辦事處＝中国都市部の末端行政組織〕募集に応募してきた。まったくインボリューションというほかない！

例3　私の友人は、娘が進学高校に合格するために、年間 5 万元もの塾費用を払っているが、まったくインボリューションだ！

例4　今回のオーダーの見積もりは 100 万元だが、そのうち利益は 5 万元しかない。他社は 96 万元での見積もりを出しているという（利益は1万元）。なんてインボリューションなんだ！

これらの 4 つの例は、ニンジンや大根の彫刻と同じような現象を示している。投資額は巨大でも見返りがごくわずかだということだ。彫刻された大根は、通常の千切りダイコンに比べて口当たりがいいわけでも、栄養価が高いわけでもない。

しかし社会全体の停滞を伴うインボリューションとは異なり・・・

現在、中国社会全体が停滞していないことは明らかだ。中国経済は 40 年間の高度成長を経験し、その間に中国の資本は海外に流出し、国力は大きく成長した。上記の例 1 では、8 時間労働から 996 の労働時間への変化は、進歩、退歩、停滞と異なる解釈が可能だ。996 は、中国のインターネット巨人の形成と中国資本全体の強化を助け、国際的な競争力を高めているが、これを大資本は進歩と見なしている。

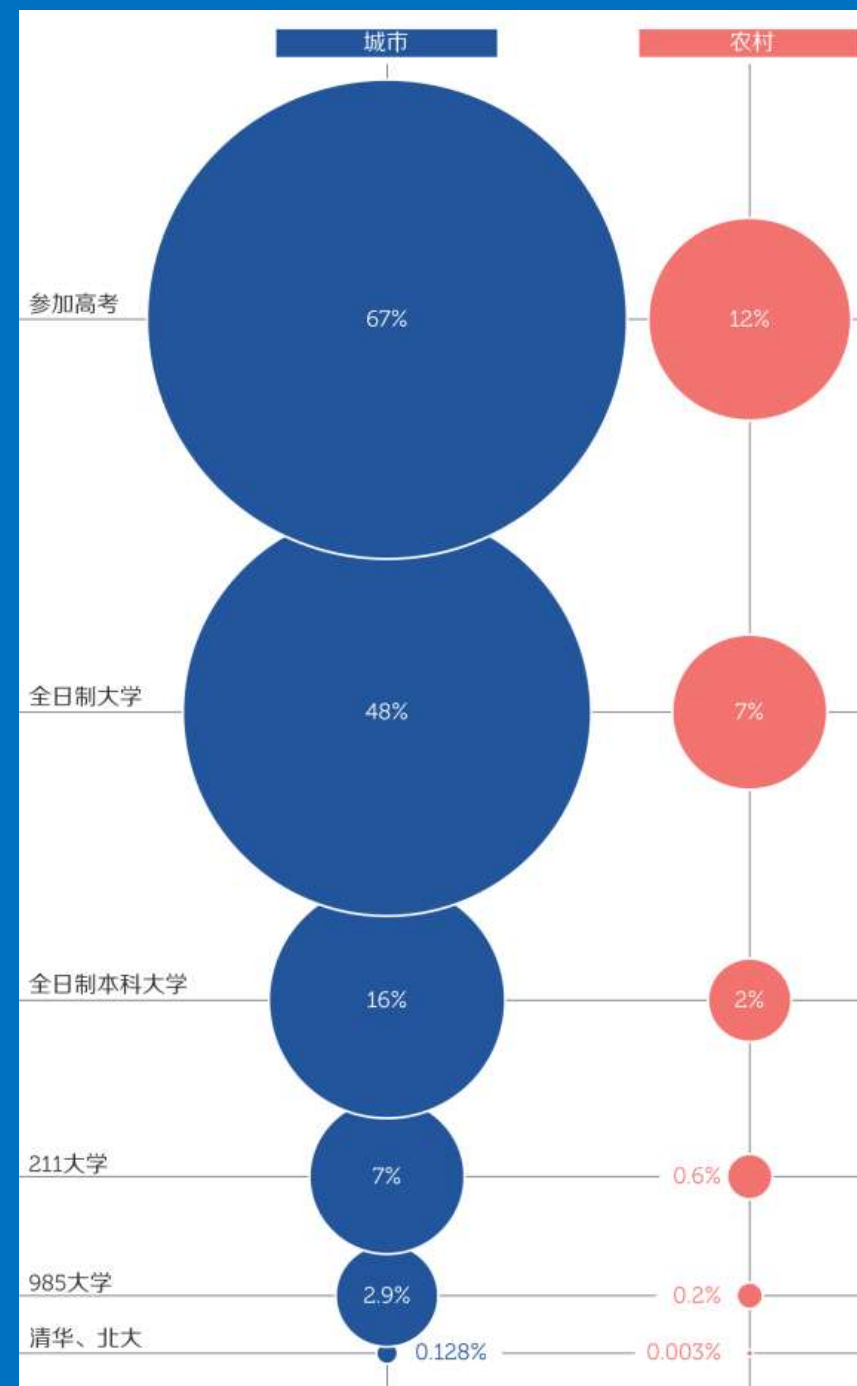
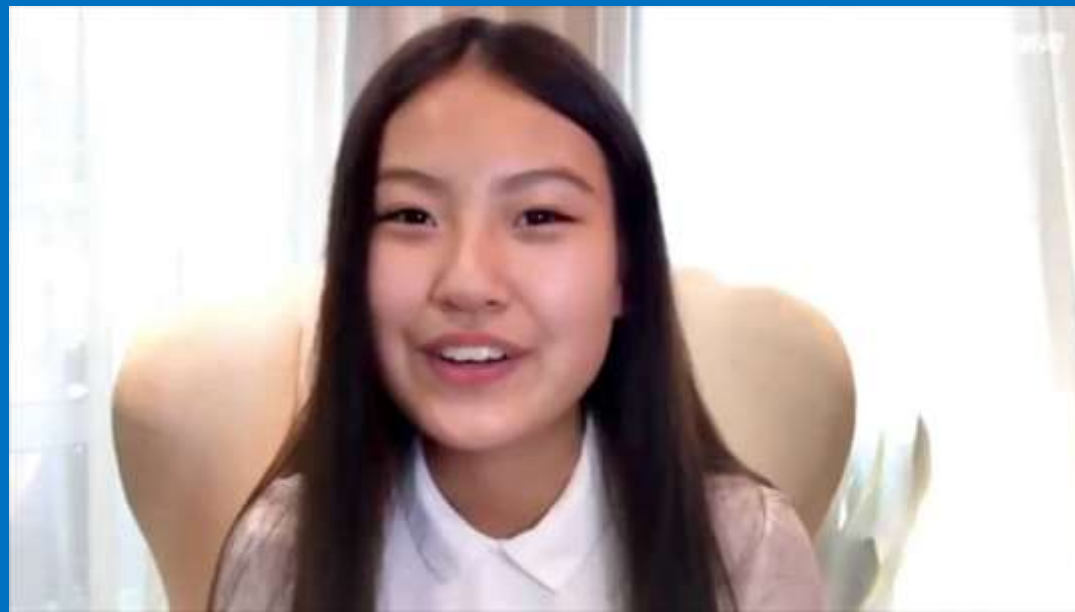
資本家と政治的支配者は、インボリューションにおける競争相手ではなく、むしろレースの主催者であり、ルールの設計者であることに注意する必要がある。つまり、現在のインボリューションの状況は、必ずしも社会全体の投資／収益比率を下げているわけではなく、特定のグループの発展を阻害しているに過ぎない

しかし、今ここで議論しているインボリューションは、競争ではなく固定化のことだ。「インボリューション」という言葉には、抜け出せない見えない牢獄に閉じ込められているというジレンマが込められている。

上記の例3（高い塾代）では、教育への投資／収益率の低下は、すべての参加者の負担を増加させるだけでなく、一部の参加者の競争力を直接的に奪うことになった。

高等教育になればなるほど、農村部出身の生徒の割合は低くなる[2]。

「農村教育アクションプラン」では、貧しい農村地域の学生の就学状況に関する大規模な調査を 8 回実施し、約 25,000 人の学生を追跡した。その結果、2013 年に高校を卒業した生徒は、都市部の学生では 90％以上だったのに対し、貧しい農村部の生徒では 37％だった。だからこそ、「辺境出身の君子」という例がだんだんなくなってきているのだ。

〔※図の説明：都市と農村における大学受験、全日制大学生（単科大学含む）、全日制本科大学生、221 重点大学、985 プログラム重点（39 校）大学、清華・北京大学の割合〕

SNS で勉学に励む自分の感動的なストーリーを投稿していた趙思雨は、その後、じつは父親が 650 万米ドルを投じて彼女をアメリカのスタンフォード大学に入学させたと報じられた

例4（企業の値下げ競争）は、資本家同士のインボリューションの例だが、資本家は失われた利益を補うために、賃金カット、従業員の解雇、無給の残業、休憩時間の短縮など、より力の弱い労働者にインボリューションのコストを転嫁する傾向がある。

「インボリューション」の特徴
（1）ある階層の社会参加は、より多くの時間、エネルギー、労働力、資本、または資源を投入する必要があるが、収益と投入の比率はますます小さくなっている
（2）参加者全体の発展が妨げられ固定化されてしまう
（3）力のない参加者であればあるほど、排除される可能性が大きくなる

◎弱者の「バトル・ロワイヤル」

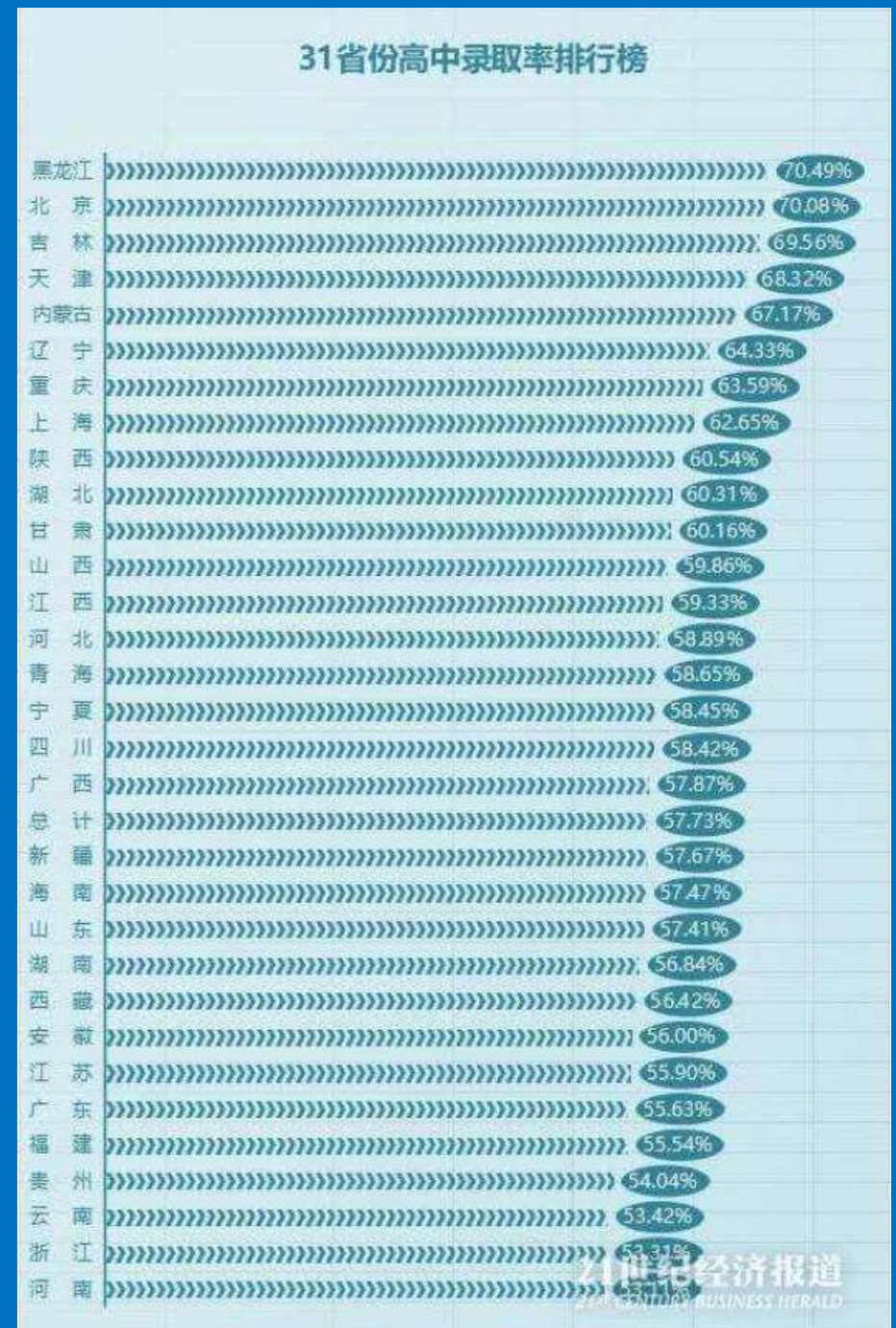
何がインボリューションを引き起こしているのか？・・・「希少価値」の存在

一等地の住宅、質の高い医療、限定品、良い結婚相手、汚染されていない水、航空会社のファーストクラスの席、バズっているレストランの予約、中央委員会の常任委員会の席、フカヒレやセンザンコウ・・・と、たくさんあるように見えるが、手に入れる際にすべて血みどろの戦いが必要になるわけではない。

人為的な希少価値

同じコストと価値の玩具でも、メーカーが意図的に生産スケジュールを遅らせただけで「希少品」となり、高額な投機の対象となる。

映画「バトル・ロワイヤル」(2000年)の舞台は、経済が破綻し、失業率が急上昇し、少年犯罪が増加し、ティーンエイジャーに対する恐怖心から大人たちが、毎年高校の中から一クラスを選んで殺戮ゲームをさせることを法制化している。学生たちに殺し合いをさせるこのゲームの最大のルールは、「3日後に複数の人が生き残っていたら、全員が付けている自爆用の首輪が爆発して死ぬ」というものだ。このようなルールは、生存の可能性という究極の希少価値を生み出すことから、学生がゲームの参加を拒否できなくなる。これは誇張された芸術的表現であるが、現在のインボリューションとの類似性(人為的希少価値)がある。

高校への入学率を意図的にコントロールしており(左記の図参照[6])、高校教育の資格は希少なものとなっている。

2019 年、中国の中等職業学校に入学した学生は 603 万 7,000 人で、高校の総入学者数の41.70%を占めている→つまり中学卒業して 4 割は職業訓練校に入る。
若年層の労働市場への参入を可能にし、特定の産業での労働力不足を補うことができる

江蘇師範大学の杜連森

「熟練工が単純労働にとってかわられ、工業企業は労働者の飼いならされた個人的資質を重視し、技能教育の価値が弱まり、職業学校の教育過程では実際の内容よりも規律や管理が重視され、内容の空洞化が進み、職業学校の教育環境が悪化した。」

貧しい家庭の生徒は、どんなに努力しても、高額な授業料の塾に通う同級生にはかなわない。これは、インボリューションのスパイラルの典型的な例だ。
→社会的ダーウィニズム

◎制御不能

これまで述べてきたように、インボリューションは富の獲得、階級の固定化、社会的統制を目的として人為的に作り出すことができる。しかし、すべてのインボリューションがデザインされているわけではなく、人為的インボリューションは設計者の手に負えないことが多い。

住宅市場は、人工的な希少価値がインボリューションを引き起こしている例。

一般的には住宅は希少ではないが、政府と開発業者が協力して高い住宅価格を作り、維持することで、一般の人々にとって住宅所有が希少価値になっている。・・・その過程で生み出された巨大企業や不動産・金融バブルは、中国社会に危機の種を撒き散らし、最近の恒大不動産バブルのクラッシュはその苦い結果の一つとなった。さらに搾取するためにインボリューションを操作した結果、それが裏目に出てしまうという興味深い事態をまもなく目の当たりにすることができるかもしれない。

景気が悪くなると、失業率の上昇は政府にとって好ましくないインボリューションの要因となる。中国政府が発表した最新の全国都市調査失業率は 5.1%（2021 年 7 月）で、2020 年の年平均 5.6%から低下している。しかし、実際の雇用状況をよりよく反映しているのは、中国のフレキシブル雇用者数が約 2 億人に達しているという事実である。

中国における柔軟な雇用の発展に関する報告書（2021 年、中国人民大学労働人事学院）
2020 年にフレキシブル雇用を利用している中国企業の割合は、2019 年に比べて約 11%増加して約 55.7%となり、約 30%の企業が柔軟な雇用の規模を安定または拡大させる意向。

企業内のインボリューションには限界があり、この悪循環に陥ると、需要を減らして高収入の仕事への依存を断つという別の選択肢を選ぶ人も出てくる。これが「寝そべり（躺平／タンピン）」と呼ばれる現象である。

・・・現在の政権がインボリューションの問題を解決してくれるとは到底思えない・・・しかし、「寝そべり」はベストな答えなのだろうか？

◎誰もが「寝そべれる」わけではない

「三和の神」は「寝そべり」の象徴だという説もあるが、周りから差別され尊厳がなく、健康的にも厳しい状況のライフスタイルを、多くの人がマネするとは思えない。

・月給 2 万元の 996 の仕事か（インボリューション）
・月給 5 千元だが週休二日で 8 時間勤務の仕事（寝そべり）

しかし「寝そべる」というのは、ある意味では贅沢なこととも言える。・・・親が毎日 10 時間以上働かなければならない工場労働者だったり、子どもが農村の留守児童［出稼ぎの親と離れて農村で暮らす子ども］だったりすると、このような「寝そべり」式の教育を実践するのは「パンがなければケーキを食べろ」と言っているのに等しいだろう。中卒で週休二日8時間労働だけで生活に足る賃金を稼ぐのは難しいし、子育てや介護の負担のある労働者が、給料は安いが比較的楽な仕事を選ぶことも、無理な話なのである。

SNS ではたくさんの人が「寝そべり」を主張しながらも、実際には「寝そべり」をしている人は一握りしかいない

家庭内の女性は、主流の価値観から、多くの無給労働を求められ、(例えば、結婚しない、子どもを産まないなどの)「寝そべり」を選択すると、より多くの社会的圧力や不当な批判にさらされることも多い。

将来に対する不安もあり、多くの人が現在に満足することを恐れ、将来のための貯蓄を増やすために努力しなければならない。たとえ、結婚しなくても、子どもを産まなくても、家を買わなくても、老後の生活や医療費の心配をしなければならないからだ。

政策によってどんどんと「寝そべり」ができる範囲が狭められていることだ。たとえば、離婚時の冷却期間の導入、子ども3人の奨励、定年の延長、年金の最低拠出年月の引き上げなどだ。

◎「夜逃げ学」

中国では古くから、戦乱、飢饉、疫病、貧困、重税などから逃れるために人々は各地を転々としてきた。

現在の中国でも、内陸部から沿岸部へ、農村から都市へと大移動が続いている。しかし、このような国内の大移動は、インボリューションからの逃避という意味においてはそれほど意義あるものではない。「田舎の秀才」が教育インボリューション（受験競争）を生き抜いて、北京や広州で就職できたとしても、だいたいはそのままストレートに雇用インボリューションに巻き込まれることになる。

2020 年までに、中国は 1070 万人もの移民を送り出す世界第 3 位の移民大国という「栄冠」を頂いている。おそらくインボリューションが一役かっているのだろう。

少し前の時期、中国移民の多くは「利益追求型」だった。それは先進国での、より良い教育、より高い給料、よりきれいな空気、より豊かな権利などを求めるものだった。だが現在は、「危険回避」が重要な理由となっている。インボリューション、政治的迫害、「共同富裕」の強制、そしてより予測可能な大混乱からの逃避のためである。

そのため、最近では「夜逃げ学」（原文：跑路學）という言葉が流行っている。もともとは、不名誉な逃亡を意味する軽蔑的な意味で使われていた。しかし現在では、合法的な留学や就労から、密入国や不法滞在に至るまで、あらゆる移民の手段が、威厳のあるなしにかかわらず、「夜逃げ学」と言われている。

◎「団結はチカラ」？

インボリューションを忌み嫌う人は多いが、なぜ一緒になって抵抗できないのだろうか・・・ストライキ、デモ、集会、団体の結成などは新しいことではない・・・今は、組織をつくるというだけで、騒乱挑発や国家転覆を扇動したとされる。

「外送騎士聯盟」(デリバリーライダー連盟)を発起した陳国江さんは、2020年6月に、SNS でバイク便労働者のグループチャットを11グループつくって、フレンド(参加者)は 1 万 4000 人を超えた。待ち時間を利用して他の配達ライダーの労働問題の相談に乗ったり、実際に解決のために動く。
2019 年 10 月、運営会社とのあいだの争いを解決するために、注文をサボタージュすることを配達員に呼びかけ、警察に 26 日間拘束された。

2021 年 2 月 18 日、「饿了麼」（「お腹すいた？」）というフード・デリバリーが春節期間に配達員を確保するために特別ボーナスの支給を約束したが、それが詐欺まがいの契約であることを、彼が SNS で暴露した。すると 2021 年 2 月 25 日、北京警察が彼を連行し、4 月 2 日に「騒動挑発罪」の容疑で正式に逮捕された。
春節前の映像　https://www.youtube.com/watch?v=ry7QSwMiGLQ&t=12s

「盟主」の陳国江さんのように、果敢に組織化を実践することは敬意に値する。しかし大多数が抵抗の声を上げない事もまた理解できる。とはいえ、運命の為すがままでいいだとか、「寝そべり」や夜逃げ学といった個人的解決しか方法がないわけではない。

長期的な展望を持ちながら、あまり目立たない形での組織化の余地はまだないわけではない。例えば、短期的に行動を起こそうとするのではなく、地道に人々の信頼をあつめながら、インボリューションの危険を説きつつ、誰もがより良く、より合理的な生活を送る権利がある伝えることは可能だろう。これは確かに非効率的な団結形態ではあるが、このような時代には必須のやり方でもある。

◎インボリューションがインボリューションの破滅を早めるか？

「加速主義」・・・恐慌待望論

加速論者は、インボリューションと戦うよりも、傍観してシステム全体が過剰なインボリューションで崩壊するのを待ち、それからインボリューションのない新しい世界を再構築したほうがよいと考える。

◎根本的な変革こそ

単独で、あるいはある分野でのインボリューションだけに取り組むことはほとんど不可能である。

政府が塾産業を短期のうちに廃止する理由は、教育インボリューションを解決したいから・・・
その理由は、まず第一に、この種のインボリューションがガバナンスに悪影響を及ぼすと考えているからだ。教育費がかかりすぎると、子どもを産む意欲がなくなり、世代間の人口断絶が悪化する。塾産業は試験のテクニックを教えるだけで、大学生の質そのものを飛躍的に向上させるわけではない・・・

教育産業を廃止しても問題は解決しない。・・・塾がなければ家庭教師を雇ったり、学校に有料の補修時間を増やすよう要求したり、さらには親が自分で家庭教師をする・・・

教育インボリューションを真に解決するためには、高校・大学の定員増、職業教育のレベルアップ、ブルーカラー労働者の社会的地位と労働条件の改善、すべての労働者への公正な賃金と社会保障の提供、マイノリティ・グループへの無償の課外指導の拡大、多様な教育システムの確立など、体系的な社会プロジェクトが必要となる。

このプロジェクトの実施には、財政投資、新法、新制度、市民社会の参加、外国の経験からの学習などが必要になる。しかし、社会の大多数が財政に関与する権利も、議員を選出する権利も、結社の権利もないのであれば、これらはすべて愚か者の夢物語でしかない。

より建設的な議論とは、自分たちが直面しているジレンマが、この国家のシステムの問題に根ざしており、根本的な変化がなければ、個人が新たなジレンマに陥り続けるということを、より多くの人間に認識してもらうことではないだろうか。このような変化は天から降ってくるわけではなく、既定の台本があるわけでもなく、すべての構成員の参画が結果に影響する。必ずしも変化を導くヒーローになる必要はないが、少なくとも、自らすすんで変革を妨げる悪党の共犯者になってはならない。